

令和3年度 項目別の自己評価表

学校法人木村学園 大阪電子専門学校自己評価委員会

【日時】2022年2月17日木曜日 16時00分～17時00分

【出席者】

学校関係者 木村 誠 学校長
上田 良和 教育改善ユニット・電気設備科班長
松本 哲也 情報エンジニア科・総務事務ユニット班長
小堀 亮也 情報エンジニア科 主任
中本 智 就職指導ユニット主任
河村 雅章 電子工学科・学生指導ユニット 主任

【場所】大阪電子専門学校 3階 コーワーキングスペース

1. 教育目標

【電子工学科】教育基本法および学校教育法にしたがい、工業専門課程を設置し、電子工学および無線工学、音響工学および特殊無線技士に係る養成をし、教養の向上と人格の陶冶を図る。また、業界関係者の助言を受け入れつつ、電子工学エンジニアとして電子回路を製作する場面で必要とされる知識を習得し、技術者として仕事に対する心構えや倫理観を養い、当校の校訓である「人技両立」を成し遂げる技術者の養成を行う。

【電気設備科】教育基本法および学校教育法にしたがい、工業専門課程を設置し、電気工事士、工事担任者および特殊無線技士に係る養成をし、教養の向上と人格の陶冶を図る。また、業界関係者の助言を受け入れつつ、電気工事士として現場で必要とされる技術を習得し、技術者としての倫理観を養い、当校の校訓である「人技両立」を成し遂げる技術者の養成を行う。

【情報エンジニア科】教育基本法および学校教育法にしたがい、工業専門課程を設置した。これにより情報技術者に係る養成をし、教養の向上と人格の陶冶を図る。また業界関係者の助言を受け入れつつ、情報エンジニアとして現場で必要とされる技術を習得し、技術者としての倫理観を養う。これをもって当校の校訓である「人技両立」を成し遂げる技術者の養成を行う。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

AIとロボット技術は、少子高齢化対策としてますます加速し多様化していくと考えられる。本校はAI×ロボット時代を生き抜くエンジニアの育成に向け、充実した実践教育をベースに教育環境を改善し、最新で時代に最適な教育を提供していく。

職業実践専門課程認定校と同等以上の教育を行い、社会のニーズにマッチした実践教育を提供していく。

2. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1			
・創業者の精神「人技両立」の教育理念は実行されているか？	④	3	2	1
・職業教育の技術面、及び職業観について重視した教育となっているか？	④	3	2	1
・当校のカリキュラムが業界のニーズを満たせるようなものとなっているか？	④	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか？	④	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界の要求する人材育成が行えるようなものとなっているか？	④	3	2	1

①成果と課題

当校の教育理念、「人技両立」は言葉そのものだけではなく、各カリキュラム内や就職指導などにおいて教員が学生たちを指導するうえでの重要な考え方となっている。

カリキュラムでは、実習時の安全についての指導はもとより、座学で教える際も理論的な内容だけではなく、技術者や社会人としての行動についても伝えるなどで学生たちの指導に当たっている。また、企業の皆様のご意見を元に新しい教育の方向性について検討、調査を行った。

②今後の改善方策

今後も引き続き、業界の意見を受ける仕組みを継続することで、当校の改善を進めていく必要があると考える。

(2). 学校運営

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 成果と課題

年間を通しての基本方針は、理事会にて承認された学園事業計画に基づき、学科の方向性を決める形をとっている。そのため、運営目的に沿った計画を年初にて策定し動いているため計画等に関しては問題ないとする。情報システムの効率化について、グーグルスイートの導入など、現在進行形で改善に努めている。また、KISS 構想として当校の実習設備や教育環境を AI・IoT 社会にふさわしい環境とするため、現在教職員一同で改善計画の作成を進めている。

② 今後の改善方策

システムの効率化に関しては、引き続き学生にとって使用しやすい環境構築を継続していく必要がある。

(3). 教育活動

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1			
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
・ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

①課題と成果

それぞれの学科で必要だと考えられる教員の技術研修を実施した。また、教員の授業実施の手法や学生の人権に配慮する手法などについても研修を実施した。今後も、継続して業界ニーズに沿い、また学生への指導技術の向上に努めていく

本年度、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの影響により、オンラインでの実習や座学を行った。関係省庁より可能である旨確認は行っていたため、実施上の問題は無かったのだが、学生からは質問がしづらい、などの意見は出ていた。当校としてもできるだけ実際の工具や材料を触って実習を行ってもらいたいと考えており、学科ごとでオンラインと登校を切り替えて登校させるなどの運用上の工夫を行い、対面での実習をできる限り行えるように対策を行った。

②今後の改善方策

企業ニーズをさらに調査し、各学科に必要な研修を行っていく。また AI・IoT 次代にふさわしい教育とは何かを念頭に置いて研修計画を作成していく。

また、オンライン授業を実習室から行えるようにするなど、より現物を見てもらえるような実習形態をできるように今後改善を図っていきたいと考えている。

(4). 学修成果

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	④ 3 2 1

①成果と課題

当校の就職に関する現在の目標は学生が希望した就職をできるようにすることとなっている。

現在、学生からの就職に関しては良い評価を受けており、今後も就職したいと思う会社へ行けるよう継続して指導をしていく。また、就職したい会社を定めるのが難しい学生には、学内での就職説明会などを実施することで業界研究や行きたい会社を見つけられるような支援・指導も引き続き行っていく。

資格取得に関しては、全員が卒業までに何らかの資格をとらせることを目標として学生への指導に当たっている。

電子工学科・電気設備科は、一年時に第二級陸上特殊無線技士の養成課程の認定を受けており、1年修了時には全員第二級陸上特殊無線技士を取得している。

電気設備科は、卒業時に第二種電気工事士の試験免除認定を受けている。

情報エンジニア科に関しては基本情報技術者試験の午前免除ができる。

それぞれの学科の特徴に応じた資格免除などの特典があり、それ以外の上位資格にもチャレンジするよう学生には指導を行っている。

②今後の改善方策

退学率がゼロになることを目指し、今後も担任教員から学生一人一人に対しこまめにフォローを実施していく必要があると考えている。

本年度は、コロナ感染症のため授業をオンラインでの授業を一時期行っていた影響もあり、学生への例年のようなきめ細かい資格指導対策を取れなかった部分があった。今後の課題としてオンライン授業であっても指導力を高め、学生の学習意欲を高められるような手法を研究していく必要があると考えている。

(5). 学生支援

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1			
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
・ 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・ 卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

①課題

当校では、各クラス担任制を導入しており、学習面、就職面での支援ができるように体制を整えている。

健康面に関しては、コロナ対策委員会が中心となり、新型コロナウイルス感染症対策を施設面や運用面で改善を行った。また、オンライン授業設備の導入など、感染拡大防止を継続して行っている。

保護者との連携については、学習や出席状況に問題のある学生に関しては、担任を通じて保護者の方と連絡をとりつつ連携して取り組んでいる。

卒業生から資格などの件で問い合わせを受けた際に適切な対応ができており、卒業生の支援に関しても取り組むことができている。

経済的支援に関しては、当校でも学費支援制度の対象校となっており学生の学費についてサポートできる体制を敷いている。

②今後の改善方策

社会人の教育ニーズに対する取り組みは、今のところ特段実施していないが、社会のニーズを調査し、対応していく。

(6). 教育環境

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

現在、学生の自習等に使用できるスペースを新設した。また各学科とも老朽化した実習設備の更新などを実施または計画を行っている。

防災体制に関しては、天災以外にも新型コロナウイルス対策についても、対策委員会を設置し学内の体制を整備している。

また、現在エレベーターの入れ替え工事実施など環境面の改善に積極的に取り組んでいる。

防災に対する体制としては、防災対策の責任者を置き、年に2階の避難訓練を実施するなど、学生・職員含めて防災対策に取り組んでいる。

また、防災時の電源喪失した場合の緊急連絡手段の確保として非常用の電源を用意するなど運用面やハード面での対策を行った。

②今後の改善方策

新型コロナウイルスの対応については、最低限授業を継続できるシステムは整ったが、対面授業と同等かそれ以上の学修成果を出すためのカリキュラム改善を引き続き行っていく必要があると考えている。

また、自主学習スペースは、今回のコロナ感染症対策のため、解放できなかったという経緯もあり、来年度にはそのような学生のための施設を学生に積極的に活用してもらえるように体制を整えていきたいと考えている。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1			
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①成果と課題

文部科学省の指針などを遵守し、適正な募集活動を行っている。

教育成果に関しては、資格取得などについて、学生の状況を適切に伝えている。

また、職業実践専門課程の認定に必須となっている情報公開を現在当校のウェブサイトにて行っている。

学納金に関しては妥当なものとなっている。

②今後の改善方策

ネット中心のPR活動を、継続して適正に行う。資格取得率などの教育成果を正確に伝えられるよう、情報の取りまとめと発信を慎重に行う。修学支援制度をはじめとした公的な支援制度や、本校独自の支援制度の充実を図る。

(8). 財務

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1			
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

①課題

前年度より学生数が増加しており、財務基盤は安定している。2022年度の入学志願者は現在募集中であるが、新型コロナウイルスの影響などもあり、オープンキャンパスの参加者が減っている部分が懸念事項となっている。

②今後の改善方策

今後も学生数を増加させ、財務基盤を安定させるためさらに学生にとって魅力的な教育内容を模索していく。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1			
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・ 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題

自己評価の結果については、本日の会議終了後その結果をまとめたのち当校ウェブサイトにて公開を予定している。

学生・卒業生および資料請求者、教職員など、学校が保有する個人情報について、保護のための対策・対応している。

②今後の改善方策

自己評価の問題点改善については、学校長をトップとして現場責任者も含め積極的に取り組めるよう進めている

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1			
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

①成果と課題

当校の学校規模もあり、なかなか地域への貢献は充分にできていない状況である。また、新型コロナウイルスの影響により人の出入りがはばかれる状況で積極的には動くことができない状態となっている。

②今後の改善方策

地域のニーズを探りかつ、安全に配慮しながらできるような活動はないかを今後検討していく。

(11). 国際交流

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1			
・ 留学生の受入れについて戦略を持って行っているか	④	3	2	1
・ 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

①成果と課題

当校では、留学生対策を行う担当者を置き、留学生の在籍管理や募集に関して学校として積極的に取り組んでいる。

②今後の改善方策

今回新型コロナウイルスの影響により、海外よりの留学生が日本で学ぶのが難しくなっている。今後の留学生受け入れは引き続き行っていく予定ではあるが、今後の状況については引き続き注意深く見守る必要があると考えている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

要改善箇所はあるが、学校全体の目的である教育分野に関してはきめ細かいサポートを実施しており今後もその部分を継続し、改善点を解消することにより教育や学校組織のレベルを上げていくことができると考える。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止についても、当校としては積極的に取り組んできたと考えており、現在のところ学内での学生どうしの感染も発生していない。今後も学生が安心して授業を受けられるよう環境の構築、維持に努めていく。

以上